

反戦 多喜二の遺志継ぐ

没後85年小樽であすから催し

【小樽】プロレタリア作家小林多喜二は85年前の1933年(昭和8年)2月20日、特高警察の拷問により、29歳の若さで亡くなった。多喜二の没後85年、毎年恒例の企画される「多喜二の遺志継ぐ」が、今年も小樽市で3日間行われ、平和をテーマとする市民劇や講演会などが行われる。実行委員長の安藤三郎は、安藤三郎が故郷を去る途中、多喜二の遺志を継いで訴えを込めた遺書を手に、小樽市で講演会を行った。

【小樽】平和には右(左)も左(右)もなし。今月上旬、小樽市民センターで行われた市民劇「この日本がいつまでも平和であってほしい」のけいこ。元高校教師の若手事務局長大地蔵さん(左)が声をならせていた。

【小樽】小樽出身の元自民党衆議議員で郵政相を務めた故郷多喜二が主人公。箕輪さんは防衛防衛次官を務め、タカ派として知られたが、政界引退後、自衛隊のインフラ派遣は違法だとして派遣に反対し、2004年に国を提訴した。

劇は小学生から70代まで20人が出演。脚本を書いた大地蔵さんは、箕輪さんについて「平和を求め、批判を浴びた多喜二の精神」と評す。多喜二の志の火を継いだ一人と評す。

講演会では、市民団体「九条の会」(実行委員長で東大教授の小森蘭一さん)と「近代日本文学」(小森さん)が主催。講演会に取組んでいる。

講演会は今、市民として講演する多喜二がテーマ。共産党員ら1568人が治安維持法違反容疑で摘発。捕縛された1933年(昭和8年)の「3・15事件」を描いた多喜二



市民劇のけいこで小学生たちを指導する大地蔵さん(左)。中央奥は小林多喜二の肖像画(西野正史撮影)



小樽商大の史料展示室で、多喜二について語る狩野富士夫特任教授

イベント	時間	場所
18日 市民劇	午後1時半~2時半	小樽市民センター・マリナーホール
小森蘭一・東大教授講演	午後2時45分~4時	
19日 狩野富士夫・小樽商大特任教授 講座	午後1時半~	小樽市民センター・研修室
20日 墓前祭	午後1時~	小樽・奥沢墓地
多喜二史料公開など	午後2時45分~	小樽商大

小林多喜二 1903年(明治36年)秋田県生まれ。4歳で小樽に移り、24年(大正13年)に小樽高等商業学校(現・小樽商大)卒。北海道拓殖銀行小樽支店に勤務し、29年(昭和4年)に劣悪な労働条件で働かされる船員を描いた『蟹工船』や、農民への搾取構造を暴いた『不在地主』などの小説を発表して拓銀を解雇された。その後、日本共産党に入党。33年(昭和8年)2月20日に治安維持法違反容疑で逮捕され、東京・築地署で特別高等警察の拷問を受けて死亡した。

劇や講演 平和憲法考える

二の小説「一九二八年三月十五日」を読み解く。

多喜二の母校の小樽商大では、多喜二関連の史実を公開、同大に残されている多喜二の学生時代の成績表(簿等)や推薦希望表などを見ることができるといわれている。

【小樽】研究が知られ、19日の多喜二遺書を担ぎ出す同大の秋野富士夫特任教授(左)は「日本近代史」は「多喜二の没後85年」を機会に、同大に残されている多喜二の学生時代の成績表(簿等)や推薦希望表などを見ることができるといわれている。

【小樽】研究が知られ、19日の多喜二遺書を担ぎ出す同大の秋野富士夫特任教授(左)は「日本近代史」は「多喜二の没後85年」を機会に、同大に残されている多喜二の学生時代の成績表(簿等)や推薦希望表などを見ることができるといわれている。

【小樽】研究が知られ、19日の多喜二遺書を担ぎ出す同大の秋野富士夫特任教授(左)は「日本近代史」は「多喜二の没後85年」を機会に、同大に残されている多喜二の学生時代の成績表(簿等)や推薦希望表などを見ることができるといわれている。